

キャッシュレス決済と お金の管理

主なキャッシュレス決済の種類

キャッシュレス決済は現金を使わない支払い方法で、以前からあるのが**クレジットカード**です。ここ数年カード会社は、利用金額に応じて付与するポイントの還元率を競っています。ポイント目当てに使っている人も多いのではないのでしょうか。

交通運賃のキャッシュレス化（ICカード導入）から始まった**電子マネー**は、発行会社が増えて、コンビニやスーパー、自動販売機などでも使えるようになりました。銀行預金の残高から即時引き落とせる**デビットカード**も、テレビコマーシャルなどにより知名度が上がってきています。これらは専用のカードを作って利用します。決済のタイミングはそれぞれに異なります（表1参照）。

表1 カードを使った主なキャッシュレス決済

主な種類	カードを作成するとき	カードを使うとき	支払いのタイミング
クレジットカード	審査あり	カードを提示	後払い
デビットカード	銀行口座に紐づけ	カードを提示	即時払い
電子マネー（交通系・流通系ICカード）	審査不要	事前にチャージ	原則、前払い

後払いのクレジットカードは 使い方に注意

利用時に最も注意が必要なのはクレジットカードです。銀行口座から実際に代金が引き落とされるのは、買い物してから数日～2か月近く後になります。お金の持ち合わせがなくても使えるため、多重債務に陥るケースもあります。一方、銀行が預金者に発行するデビットカードは、口座残高の範囲でしか使うことができません。

電子マネーは事前にチャージするタイプが多いので、手持ちのお金以上に使うことはできません。ただし電子マネーの中には、残高が一定金額以下になると、紐づけているクレジットカードから自動的にチャージを行うオー

トチャージを設定できるものがあります。その場合は後払いになり、しかも自分でチャージしないので使い過ぎになりがち。設定や使い方に注意しましょう。

スマホ決済も クレジットカード利用には注意

スマホの普及で一気に増えているのがスマホ決済です。「〇〇ペイ」などのサービス名で複数の事業者がサービスを提供しています。スマホを使った新しい型式ですが、カードを使うキャッシュレス決済と類似する部分があります。スマホ決済は支払い方法を選択して利用します（表2参照）。クレジットカード、銀行口座からの引き落としやチャージ、現金や電子マネーのチャージがあります。複数の支払い方法を併用できる事業者もあります。クレジットカードを使うと、やはり後払いによる使い過ぎなどのリスクが生じます。

表2 スマホを使ったキャッシュレス決済

事前準備

- 専用アプリをインストールする（〇〇ペイなど）
- 支払方法を選択し登録しておく


クレジット
カード

デビット
カード

現金や電子マネーの
チャージ

決済形式

- ① タッチ決済
支払う時に店側の専用端末にかざす
- ② コード決済
・利用者のスマホ画面に表示されるコードを店側が読み取る
・店側が用意しているコードを利用者のスマホで読み取る



支払い方法の多様化で 家計管理が煩雑に

家計からの支出は、毎月様々な方法で行っています。銀行引き落としの他、ATMで現金を引き出して支払う、現金を電子マネーにチャージして支払う、クレジットカードやデビットカードで支払う、クレジットカードなどを登録してスマホ決済で支払う…。便利ではありますが、お金の流れや、家計の全体像を把握しづらくなるデメリットもあります。

支払い方法と費目を関連付ける

上手に家計管理をするには、支払い方法と費目を関連付けるのが有効です。

例えば、家電の買い替えや旅行代金などの特別支出はクレジットカードで、行きつけのスーパーやコンビニはスマホ決済で、チャージは銀行口座から行うなど。さらにクレジットカードでの支払いは年間30万円まで、スマホ決済へのチャージは毎月3万円までなどと、予算を決めて残高を見ながら使えば使い過ぎを防げます。現金とは異なり、キャッシュレス決済は「いつ、どこで、何を、いくらで」など、時系列で明細や履歴を確認できるのもメリットです。収支の管理に活用しましょう。

キャッシュレス決済で使い過ぎを防ぐポイント

- 費目と関連付ける
- 予算を決める
- 履歴や明細を必ず確認する

キャッシュレス決済のリスク対策

口座情報を不正に入手し、本人になりすましてキャッシュレス決済口座を作り、銀行口座から預金を不正に引き出す事件がありました。スマホやパソコンに偽のメールを送りつけて、偽の画面に誘導し、ネットバンキングのパスワードなどを盗み取った上での犯行です。不審なメールのリンクは絶対にクリックしてはいけません。



不正利用などの被害に遭わないためには、使っていないサービス（カード、アプリ、銀行口座など）は速やかに解約し、使っているサービスも身に覚えのない支出がないかこまめな確認が必要です。クレジットカードの番号やパスワード、ネットバンキングのログイン時の契約者番号やパスワードの管理も重要です。

スマホ決済のチャージ方法として銀行口座を登録する場合は、特に注意が必要です。銀行口座と紐づけないなら、コンビニATMなどから現金でチャージする方法もあります。

スマホの紛失や身に覚えのない請求を受けたときには速やかにサービス提供会社（アプリ運営会社やクレジットカード会社など）のカスタマーサポート窓口や金融機関に連絡をしましょう。連絡先はスマホとは別に保管しておくといいでしょう。

便利なキャッシュレスを安全に使いこなして家計管理に役立てましょう。

キャッシュレス決済の支出管理の例

